

国際化学肥料ニュース（2018年11月）

肥料業界の2018年11月動態

- * 旺盛な需要に支えて、10月末もブラジルと東南アジアの塩化加里価格がゆっくり上昇し続けている。2018～2019年度のブラジル塩化加里輸入量が1,000万トンを超える見通しで、すでに粒状塩化加里のCFR価格が350～360/トンになり、昨年同期より約20%高くなっている。

一方、先月インドネシアのSinar Mas社が行った塩化加里の国際入札において、CFR315ドル/トンで10万トン塩化加里を契約した。9月の価格より5ドル/トン上がっていた。また、マレーシア土地発展局が10月23日に行った肥料入札において、1.6万トン塩化加里を契約した。同じマレーシアのKulim社が9万トン塩化加里、Sarawak Oil Palms社が5～6万トン塩化加里を求めている情報がある。今年中、塩化加里の高値が続いている見通しである。

- * ロシアのUralkali社は塩化加里の在庫がないため、インドおよび中国との2018年度の塩化加里輸入基本契約を結んでいない。Uralkali社の発表によれば、2018年12月と2019年1月の塩化加里生産予定分がすでに予約販売済みで、インドと中国にまとめた数量の輸出が不可能になったためである。

- * 10月最終の週にはインドとブラジルの需要が非常に弱いため、リン安の国際市況が下がり続けている。インド側のDAP価格要求はCFR410～420ドル/トンで、中国のFOB価格が405ドル/トンまで下がったが、契約に至らなかった。ほかにはロシアのEuroChem社がブラジルにCFR455ドル/トンで1万トン粒状MAP、アメリカのMosaic社がカナダにFOB428～430ドル/トンで10万トンMAP/DAPの輸出契約を結んだ。需要不足で来年1月までリン安の国際市況が弱みで推移するだろう。

- * 中国の上場している肥料メーカーの業績が大幅に改善された。上場している22社の2018年1～9月では純利益80.43億人民元（約11.66億ドル）、昨年同期より220.13%増で、最高記録を更新した。そのうち窒素肥料メーカー11社の純利益が851.11%増の60.76億人民元（約8.8億ドル）、リン酸肥料メーカー2社の純利益が147.25%増の2.08億人民元（約3,000万ドル）、化成肥料メーカー6社の純利益が12.46%増の22.2億人民元（約3.22億ドル）である。加里肥料1社だけが赤字で、赤字額12.13億人民元（約1.76億ドル）。業績が改善された理由は環境検査と政府の生産規制で稼働率が下がり、化学肥料生産量が大幅に減少したことにより出荷価格が大幅に上昇したためである。

- * 中国国家统计局の最新データによれば、9月の中国化学肥料生産量が0.1%減の496.5万トン（純N,P,K換算）、その内訳は窒素肥料が4%減の306.2万トン（N換算）、尿素の実生産量が5%減の204.5万トン、リン酸肥料が8.5%増の124.5万トン（P₂O₅換算）、加里肥料が9.6%増の65.8万トン（K₂O換算）。

- * 10月22日開札されたパキスタンの10万トン尿素入札では応札価格が10月5日開札のインドの尿素入札より大幅に下がった。中東産尿素がFOB328~330ドル/トン、中国産尿素がFOB320ドル/トンに相当する。

- * 11月7日開札されたバングラデシュの尿素入札では、最低応札価格が普通尿素ではCFR378.70ドル/トン、大粒尿素ではCFR379.87ドル/トンである。大部分の応札が中国産尿素である。

- * 11月6日インドMMTC社が新たに尿素入札を行った。開札が11月14日、船積期限が2019年1月7日、購入数量が不定量。また、11月6日パキスタンも5万トンの尿素入札を行った。

- * 中国税関の最新データによれば、2018年10月の化学肥料輸出量が64.9%増の297.6万トン、金額が124.6%増の9.94億ドル。その内訳は尿素24万トン、DAP136万トン。
一方、2018年10月の化学肥料輸入量が47.3万トン、金額1.52億ドル。その内訳は塩化加里32万トン、化成肥料14万トン。

- * オーストラリアのBHP社は中国の中農グループと塩化加里販売契約を締結した。BHP社が開発しているカナダにあるJason加里鉱山から産出する塩化加里を中農グループが中国国内に輸入販売する内容である。Jason加里鉱山が2022~2023年に第1期工程を完成し、稼働し始める計画である。塩化加里の設計生産能力が400万トン/年、世界最大級の加里鉱山である。

- * 11月第2週、リン安の市況が一段と弱くなっている。その原因はインドとパキスタン、ブラジルの需要が減っているためである。中国のDAP価格が半年振りにFOB408~410ドル/トンに下がり、サウジアラビアのMa'aden社もパキスタン向けのCFR価格を430ドル/トンまで下がった。
一方、モロッコOCP社はアメリカへの輸出を強化している。11月2船、12月1船計3船34万トンDAP/MAPの輸出を決めた。昨年末アメリカMosaic社がフロリダ州にあるPlantリン酸工場を閉鎖してから、リン安の輸入量が急増した。今年末までさらに40万トンのリン安を輸入する可能性がある。

* 2018年1～9月中国の肥料輸出データ

| 品名 | 2018年1～9月数量 | 2017年1～9月数量 | 増減率 |
|---------|-------------|-------------|--------|
| 硫安 | 493.9万トン | 411.8万トン | 19.9% |
| 尿素 | 112.7万トン | 353.0万トン | -68.1% |
| 塩安 | 78.7万トン | 108.3万トン | -27.4% |
| 硝安 | 18.2万トン | 17.0万トン | 6.8% |
| DAP | 484.4万トン | 459.8万トン | 5.3% |
| MAP | 178.0万トン | 230.0万トン | -22.6% |
| 過リン酸石灰 | 22.1万トン | 4.4万トン | 405.7% |
| 重過リン酸石灰 | 112.0万トン | 106.6万トン | 5.1% |
| 塩化加里 | 15.3万トン | 17.4万トン | -12.3% |
| 硝酸加里 | 8.7万トン | 7.5万トン | 16.6% |
| 化成肥料 | 100.9万トン | 79.0万トン | 27.8% |
| 硫酸苦土 | 73.5万トン | 71.2万トン | 3.3% |
| 硝酸石灰 | 31.9万トン | 30.0万トン | 6.5% |
| 有機肥料 | 11.5万トン | 11.1万トン | 3.6% |

* エチオピア政府は国際機関から12億ドルの資金を獲得した。この資金は先日入札で購入を決めた62.5万トンリン安と化成肥料の代金支払いに充てられる。なお、モロッコのOCP社がこの入札で肥料全量を落札した。

* カナダのNutrien社が第3四半期に390万トン塩化加里を販売し、前年より17%増で最多記録を更新したと発表した。それでも旺盛な加里肥料需要に応えられず、ヨーロッパおよび東南アジアの粒状塩化加里価格がゆっくり上昇している。その傾向は来年2月まで続くだろうと見ている。

* 硫安が初めて中国の輸出肥料の首位に立った。中国税関の統計によれば、1～9月の硫安輸出量が19.9%増の493.9万トン、第2位のDAPより9.5万トンも多い。1～9月毎月硫安輸出量が35万トンを超え、6月が67万トン、8月が64.5万トンを輸出した。中国硫安の輸出先はベトナム、フィリピン、マレーシアなど東南アジアのほかブラジル、トルコにも大量に輸出した。

1～9月硫安の平均FOB価格が116.8ドル/トンで、前年同期より10.9%上昇した。11月現在は鉄鋼副産硫安のFOB価格が115ドル/トン前後で、カプロラクタム副産硫安のFOB価格が120～130ドル/トンに上がった。

- * インド MMTC 社が 11 月 6 日行った尿素の国際入札は 11 月 14 日開札した結果、21 社が応札、応札数量 360 万トン。最低応札価格は Ameropa 社の CFR 西海岸 333.73 ドル／トン、Drey Moor 社の CFR 東海岸 335.19 ドル／トン。前回（9 月 25 日告示、10 月 5 日開札）の尿素応札価格に比べ、約 20 ドル／トン安くなっている。
- * インド MMTC 社の尿素入札結果が明らかにされた。購買数量 181.2 万トン、中国産 71.9 万トン、残りは中東産尿素である。今回インド側の契約数量はこの数年最多で、来年春の需要量を満たしているため、3 月までに新たな尿素入札を行わないだろう。尿素の輸入先については 84.7 万トンが西海岸の港、66 万トンが東海岸の港、30.5 万トンが輸入港未定という情報である。
- * 関係筋の情報によれば、中国はアメリカによるイランへの制裁をうまく利用して、密かにイラン産尿素を輸入し、そのままインドまたはパキスタン、アフリカなどに転売し、利さやを稼ぐ動きがある。10 月から 11 月中旬まで 7 船のイラン産尿素が中国煙台港に入港することになった。そのうちの 3 船はインド MMTC 社が 9 月 25 日告示、10 月 5 日開札した尿素の国際入札に供給するものである。なお、インド MMTC 社の尿素入札はアメリカからの要請を受け、イラン産尿素の応札を公式に排除したと表明した。
その動きにより、10 月からイランから中国向けの非イラン籍船舶の船賃を大幅に値上げし、8 月に比べて 11 月の船賃が倍になった。
- * 11 月第 3 週、リン安の需要不足で、市況が下落し続けている。東半球では、インド NFL 社が Aries 社を通して FOB 406~407 ドル／トン、CFR421~422 ドル／トンで中国産 DAP5 万トンを購入した。パキスタン Fauji 社は 11 月 16 日行った DAP4.5 万トンの入札に 6 件の応札があり、すべて中国産である。最低応札価格が CFR425 ドル／トンで、月初より 3~5 ドル／トン低下した。また、インドネシアは 4 万トン DAP の入札を行い、応札された中国産 DAP の FOB 価格が 405~410 ドル／トンといわれている。
一方、西半球では、サウジアラビア Ma'aden 社はアメリカに FOB415 ドル／トンで 4.5 万トン DAP と MAP を輸出した。ブラジルがロシア EuroChem 社から輸入される MAP の CFR 価格も 5 ドル／トン下げて、450 ドル／トンと判明した。リン安の不振はしばらく続きそうである。

大手各社の営業業績

- * イスラエルの ICL 社が第 3 四半期の業績を公表した。加里肥料生産量が 2.5%減の 115 万トン、販売量が 13.7%減の 120 万トン。リン酸肥料生産量が 25.5%増の 61.5 万トン、販売量が 8.9%増の 61.4 万トン。加里肥料とリン酸肥料の価格上昇で、純利益が 54%増の 1.29 億ドル。

- * ロシアの PhosAgro 社が 1～9 月の業績を公表した。化学肥料生産量が 9.8%増の 670 万トン。その内訳は尿素が 46%増の 120 万トン、硝安その他の窒素肥料生産量が 34%増の 160 万トン、MAP と DAP 生産量が 2.4%減の 220 万トンであるが、リン酸塩と飼料用リン酸二カルシウム生産量が 4.1%増の 510 万トン。販売については、化成肥料販売量が 12%増の 210 万トン、NPS 肥料（硫リン酸系化成肥料）販売量が 3.4%増の 29.8 万トン。ウクライナの制裁措置により、旧ソ連の加盟国で構成される独立国家共同体への化学肥料輸出量が 60%減ったが、EU、南米と北米、インドへの販売量がそれぞれ 30～50%も増えたため、全体の販売量が増加した。
- * サウジアラビアの M'aaaden 社が第 3 四半期の業績を公表した。リン安生産量の増加と出荷価格の上昇により、純利益が 98%増の 1.38 億ドルになった。
- * ロシアの EuroChem 社が第 3 四半期の業績を公表した。化学肥料販売量が 7%増の 350 万トン、その内訳は尿素が 19%減の 48.2 万トン、DAP が 1%増の 27.5 万トン、MAP が 5%増の 32.8 万トン、硝安が 27%減の 29.1 万トン、尿素硝安液肥（UAN）が 27%増の 28.7 万トン、化成肥料が 22%増の 90.9 万トン。売上高が 23%増の 14.4 億ドル、粗利益が 40%増の 5.86 億ドル。
- * アメリカの CF Industries 社は第 3 四半期の業績を公表した。売上高が 20%増の 10.4 億ドル、純利益が 3,000 万ドル（前年同期が 8,700 万ドルの赤字）。肥料部門の業績はアンモニア販売量が 20.5%減の 67.5 万トン、尿素販売量が 16%増の 136 万トン、硝安販売量が 10%減の 60.1 万トン、尿素硝安液肥（UAN）販売量が 4%減の 162 万トン。肥料販売量が減ったが、すべての肥料出荷価格が上昇したため、業績が大幅に改善した。
- * ドイツの K+S 社は第 3 四半期の業績を公表した。塩化加里販売量が 29%増の 86 万トン、苦土肥料などその他の肥料の販売量が 56 万トン、売上高が 16%増の 8.4 億ユーロ、EBITDA が 92%減の 340 万ユーロである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 中国とアルジェリアが共同でリン鉱山の開発とリン安工場を建設することについて合意した。当該プロジェクトは中国国営企業中信グループと瓮福グループ、アルジェリアの国営企業アルジェリア国家石油（Sonatrach）と化学肥料メーカー Semidal-Manal 社の 4 社が合弁企業を設立し、2019 年からアルジェリアの東部、チュニジア国境と接するところにリン鉱石採掘能力 600 万トンのリン鉱山とリン安（DAP と MAP）生産能力 300 万トンの工場を建設し、2022 年完成、稼働する計画である。

その他

- * 中国政府はリン鉱石資源を保護管理するため、2019年1月1日からリン鉱石の輸出に輸出許可状制度を導入すると発表した。すなわち、リン鉱石を輸出するものは事前に政府に輸出許可を申請し、許可された場合に限り輸出できる制度である。

- * 11月5日、カナダのNutrien社はカナダニューブランズウィック州SussexにあるPicadilly加里鉱山を永久に閉鎖すると発表した。当該加里鉱山は2015年末に一時閉山し、2016年に一度メンテナンスを行ったが、採掘コストが高いため、その後再開されていない。当該加里鉱山の完全閉山により、帳簿上約18億ドルの固定資産が除去される。

- * オーストラリア政府のアンチダンピング委員会は中国、スウェーデンとタイから輸入した硝安に対して、不当廉売と認定し、10月25日から中国からの硝安に39.5%、スウェーデンのYara AB社からの硝安に51.8%、タイからの硝安に37.1%のアンチダンピング関税を徴収すると発表した。

- * アフリカのナイジェリアからの報道によれば、11月11日ナイジェリア化学肥料生産と販売業者協会（FEPSAN）は政府に対して化成肥料の輸入を禁止するよう要請した。ナイジェリア国内に23ヶ所の化成肥料工場とBB配合工場があり、年間400万トンの化成肥料とBB配合肥料を生産することができる。しかし、外国（主にモロッコ）から化成肥料が大量に輸入され、国内肥料工場が11ヶ所しか稼働されず、ほかの工場が休業に追い込まれた。

ナイジェリア化学肥料生産と販売業者協会の総裁は化成肥料輸入を禁止し、代わりに尿素、リン安と加里原料を輸入して、国内で加工すれば、毎年12億ドルの外貨が節約するほか、数千人の雇用機会も創出できると述べる。

ナイジェリア政府はその要請に基づき、2019年から化成肥料の輸入を制限すると表明した。モロッコのOCP社も化成肥料の代わりにDAPの輸出増加を検討している模様。